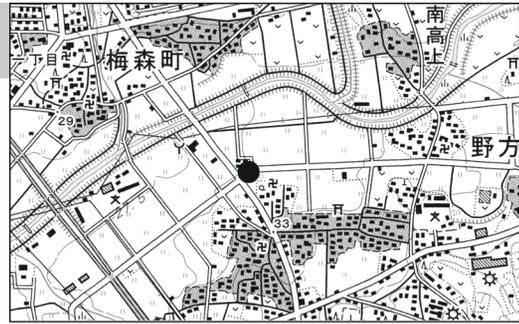


さんがせ
三ヶ所遺跡

所在地 日進市浅田町地内
(北緯35度7分47秒 東経137度1分20秒)
調査理由 県道岩崎名古屋線道路改築
調査期間 平成17年8月～9月
調査面積 800㎡
担当者 小澤一弘・永井宏幸

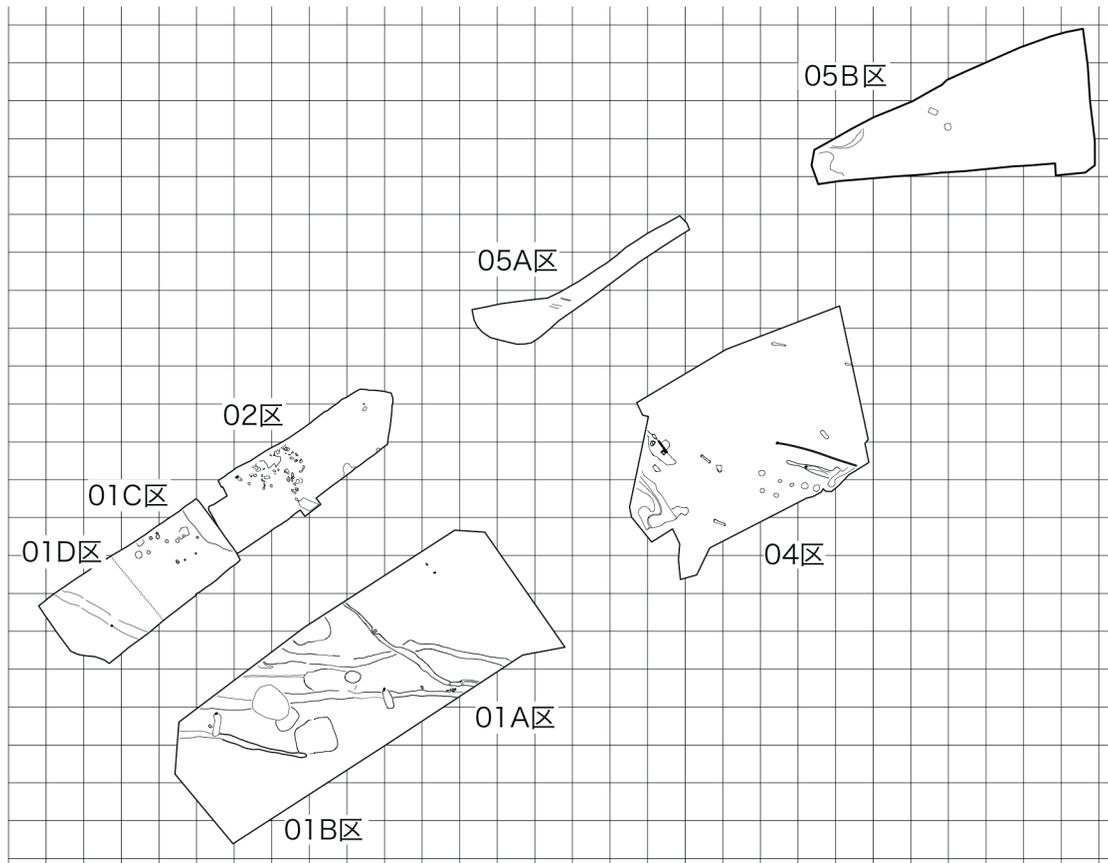


調査地点 (1/2.5万「平針」)

調査の経過 調査は、岩崎名古屋線建設の事前調査として、愛知県道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成13年度(1,550㎡)、平成14年度(370㎡)、平成16年度(880㎡)の3次にわたりおこなった。今回は4次調査にあたり、平成17年8月から9月にかけて実施した。調査面積は800㎡である

立地と環境 三ヶ所遺跡は日進市の西部、浅田町地内に所在する。現在の国道153号線バイパス浅田西交差点の北東500mに位置し、天白川左岸域に展開する沖積地に立地する。現地標高は28m前後を測る。隣接する遺跡としては、古代から中世にかけての遺構・遺物を確認した西田面遺跡が500m南西にある。

調査の概要 調査の結果、古代から近世にかけての遺構・遺物が確認された。本年度の調査区は、遺構と遺物が極めて少ないことから、遺跡の北西端と考えられる。



遺構配置図 (1:2000)

05A区は、耕地整理前の用水路跡を確認した。調査区内で確認できる範囲では、若干北に振るほぼ東西方向の溝で、おそらく04区水路1および2に繋がる溝であろう。

05B区は、土坑2基と溝1条を検出した。いずれも尾張型第6型式の灰釉系陶器を伴う遺構であった。

ま と め 4年にわたる調査の結果、調査面積が都合3,600㎡に達した。本年度の調査は最終年度にあたるので、調査成果をまとめておきたい。

遺跡の大半は、大きく3時期に分かれる。10世紀代を中心とした遺構・遺物群、12世紀半ばを中心とした遺構・遺物群、そして近世から耕地整理直前の水田関連の水路。現在の三ヶ所交差点がちょうど自然流路にあたり、南東から北西へ、天白川へ向かって流れている。この流路の方向と沿うように遺構が展開する。

04区の西端で確認した溝SD605は古代の流路と想定できる。01AB区の古代溝群は微高地縁辺に位置し、水路あるいは道路遺構に伴う溝の可能性が指摘できる。

中世の遺構は土坑を中心に検出した。土坑の性格を直接示すものはない。

近世以降は、耕地整理前の景観が旧地図から窺える。水田を中心とした地区にあたる。

(永井宏幸)



調査区全景（東から）